

★厳しい冬の寒さ…その先には★

師走の候、保護者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。気がつけば、暦は12月の1枚を残すのみとなりました。21日（土）は冬至でゆず湯、24日（火）は2学期終業式にクリスマスイブ、25日（水）はクリスマス本番、31日（火）は大晦日、NHK 紅白歌合戦、除夜の鐘。年の瀬に向かって、これから時は慌ただしく流れ過ぎていくのでしょうか。

故郷の青森津軽地方では、いよいよ冬本番を迎える頃です。冬、雪とくれば、石川さゆりの『津軽海峡・冬景色』をつい口ずさんでしまいます。♪ 上野発の夜行列車 おりた時から青森駅は 雪の中 ♪ 1977年に発売され、その年の日本レコード大賞を受賞した名曲です。歌詞の中にある、北のはずれ「竜飛岬」は、温暖な瀬戸内気候に住む関西の方々には想像もつかないほどの過酷極まりない真白な世界です。シベリア寒気団が吹き下す暴風雪は、海では時化(しけ)となり、陸では地吹雪となって視界を遮り、「ホワイトアウト」により身動きが取れなくなります。まさに危険と隣り合わせの土地柄。外に一步出るのでさえ相当の覚悟が要ります。



津軽海峡・冬景色 歌碑

「津軽には七つの雪が降る」。小説『津軽』の中で太宰治が紹介したフレーズです。七つの雪とは「こな雪 つぶ雪 わた雪 ざらめ雪 みず雪 かた雪 春待つ氷雪」のことですが、本当に確固たる相違はあるのでしょうか。気象学的な説明はともかく、私個人の感覚として太宰が発した七つの雪は言い得て妙だと思っています。手のひらに舞い降りてきた雪のかけらに顔を近づけ凝視してみると、日によって結晶の形や肌触りが明らかに違うのです。特に冬の日照時間

が短い分、雪の白はほんのりとした明るさを感じさせてくれます。まさに「蛍雪の功」と言われるゆえんです。七つの雪の中で特に私が好きなのは、春待つ氷雪。長く凍える厳しい冬をじっと耐え、三寒四温を経て、うららかな春の訪れが間もなくやってくることを告げる役目の雪と言えるでしょう。



津軽富士 岩木山

「冬来たりなば、春遠からじ」。つらい時期を耐え抜けば、幸せな時期は必ず来る。目標を達成するにもそれ相応の我慢が必要です。お子様が今取り組んでいることが、近い将来、どうか成就できますように。

雪原を走る 津軽鉄道ストーブ列車



11/16（土）の学校祭には、休日にもかかわらず朝早くからお越しいただきありがとうございました。圧巻のステージ演技、華やかな展示作品、笑顔で客寄せのすまっこバザール。お子様たちの頑張りに感動し通しの1日でした。文責：寺沢 光明